

牧師室から (2021.11.28)

先週初めに妻が広島に仕事で出かけ、その間、メグと自分の二人で数日過ごすこととなった。大阪でもこのようなことがあったが、そのような折には必ず何かハプニングが起こる。その時は先犬のアイネだが、夕飯に小生がカレーの煮つけを作って、飲み物を近くのコンビニまで買いに出かけたところ、その際にテーブルの上のカレーを食べてしまった。硬い骨が心配で、急いで夜間の救急病院にタクシーで駆けつけたが、レントゲンを採ったら、幸いに、骨は胃の中で大分溶けていたようであった。

今回はメグだが、千葉の両親からもらったお小遣い（数枚のお札が、緑のゆうちょの封筒に入っていて、「メグちゃんに何か美味しいものを食べさせてあげてね。」と言われていた）を引き出しから引っ張り出して、噛みちぎり、結構食べてしまったのである。無残にも破れた残骸が、散らばっていた。小生は何回か前にこの欄で、彼女によって模範六法とローズンゲンが被害に遭ったことを記したが、覚えておられるであろうか。本当に「猫に小判」「豚に真珠」と言うが・・・

「神聖なものを犬に与えてはならず、また、真珠を豚に投げてはならない。（マタイ 7：6a）」ここで「神聖なもの」「真珠」とは言わずもがなみ言葉である。ただこの「神聖なもの」という語は、ギリシヤ語の誤訳で、元々は「イヤリング」であったという学説がある。すると原文は「イヤリングを犬に与えるな、また、真珠を豚に与えるな」となるが、何だかこちらの方が自然な感じがする。小生が聖書を訳すようなことがあれば、こちらを採りたい。

もし、うちのメグにイヤリングを与えたら、喜んでかじって遊んでバラバラにするに違いない。

(鈴木淳一牧師)